

われは草なり

高見順

われは草なり
伸びんとす
伸びられるとき
伸びんとす
伸びられぬ日は
伸びぬなり
伸びられる日は
伸びるなり

われは草なり
緑なり
全身すべて
緑なり
毎年かはらず
緑なり
緑の己れに
あきぬなり
われは草なり
緑なり
緑の深きを
願ふなり

ああ 生きる日の
美しき
ああ 生きる日の
楽しさよ
われは草なり
生きんとす
草のいのちを
生きんとす

あめ

山田今次

あめ あめ あめ あめ
あめ あめ あめ あめ
あめは ぼくらを さんざか たたく
さんざか さんざか
さんざん ざかざか
あめは さんざん ざかざか ざかざか
ほったてごやを ねらって たたく
ぼくらの ぐらしを びしびし たたく
さびが ざりざり はげてる やねを
やすむ ことなく しきりに たたく
ふる ふる ふる ふる
ふる ふる ふる ふる
あめは さんざん ざかざん ざかざん
ざかざん ざかざん
さんざん ざかざか
つぎから つぎへと ざかざか ざかざか
みみにも むねにも しみこむ ほどに
ぼくらの ぐらしを かこんで たたく

かもつれっしゃ

有馬 敲

がちゃん がちゃん がちゃん
がちゃん がちゃん がちゃん
がちゃああん がちゃああん

がったん ごっとん がったん
ごっとん がったん ごっとん
がったん ごっとん がったん

ごっと がった ごっと がった
ごっと がった ごっと がった
ごっと がった ごと がた

がた ごと がた ごと がた ごと
がた ごと がた ごと がた ごと
がた ごと がた こと かた こと

かた こと かた ことかたこと
かたことかたことかたことかたこと
かたことかたことことことことこと

竹

萩原朔太郎

光る地面に竹が生え、
青竹が生え、
地下には竹の根が生え、
根がしだいにほそらみ、
根の先より繊毛が生え、
かすかにけぶる繊毛が生え、
かすかにふるえ。

かたき地面に竹が生え、
地上にするどく竹が生え、
まっしぐらに竹が生え、
凍れる節節りんりと、
青空のもとに竹が生え、
竹 竹 竹が生え。

雨にも負けず

宮沢賢治

雨にも負けず
風にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ
丈夫なからだをもち
慾はなく
決して怒らず
いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と
味噌と少しの野菜を食べ
あらゆることを
自分を勘定に入れずに
よく見聞きし分かり
そして忘れず
野原の松の林の陰の
小さな萱ぶきの小屋にいて
東に病気の子供あれば
行って看病してやり
西に疲れた母あれば
行ってその稲の束を負い
南に死にそうな人あれば
行ってこわがらなくてもいいといい
北に喧嘩や訴訟があれば
つまらないからやめろといい
日照りの時は涙を流し
寒さの夏はおろおろ歩き
みんなにでくのぼーと呼ばれ
褒められもせず
苦にもされず
そういうものに
わたしはなりたい

落葉松

北原白秋

からまつの林を過ぎて、
からまつをしみじみと見き。
からまつはさびしかりけり。
たびゆくはさびしかりけり。

からまつの林を出でて、
からまつの林に入りぬ。
からまつの林に入りて、
また細く道はつつけり。

からまつの林の奥も
わが通る道はありけり。
霧雨のかかる道なり。
山風のかよふ道なり。

からまつの林の道は
われのみか、ひともかよひぬ。
ほそぼそと通ふ道なり。
さびさびといそぐ道なり。

からまつの林を過ぎて、
ゆゑしらず歩みひそめつ。
からまつはさびしかりけり、
からまつとささやきにけり。

からまつの林を出でて、
浅間嶺にけぶり立つ見つ。
浅間嶺にけぶり立つ見つ。
からまつのまたそのうへに。

からまつの林の雨は
さびしけといよよしづけし。
かんこ鳥鳴けるのみなる。
からまつの濡るるのみなる。

世の中よ、あはれなりけり。
常なけどうれしかりけり。
山川に山がはの音、
からまつにからまつのかぜ。

風景 純銀もざいく

山村暮鳥

[illegible][illegible][illegible]

心に太陽を持て

ツェーザル・フライシュレイ作
山本有三訳

心に太陽を持て。
あらしが ふこうと、
ふぶきが こようと、
天には黒くも、
地には争いが絶えなかりと、
いつも、心に太陽を持て。

くちびるに歌を持て、
軽く、ほがらかに。
自分のつとめ、
自分のくらしに、
よしや苦勞が絶えなかりと、
いつも、くちびるに歌を持て。

苦しんでいる人、
なやんでいる人には、
こう、はげましてやろう。
勇気を失うな。
くちびるに歌を持て。
心に太陽を持て。

いち

谷川俊太郎

いちってね
つまりぼくがね いちなのさ
ぼくは せかいで ひとりきり

いちってね
つまりママがね いちなのさ
ママは せかいで ひとりきり

いちってね
つまりきみもね いちなのさ
ぼくと きみとで 2になるよ

いちってね
だけどちきゅうは ひとつなの
ぼくと きみとで てをつなぐ

いちってね
だからはじめの かずなのさ
ちいさいようで おおきいな

歩くうた

谷川俊太郎

ひとは歩く
てくてく歩く
ひとは歩く
のそのそ歩く
ひとは歩く
ぶらぶら歩く
ひとは歩く
道がなくても
ひとは歩く
砂漠をこえて
ひとは歩く
よそ見しながら
ひとは歩く
好きなほうへ
ひとは歩く
今日から明日へ
ひとは歩く
自分の足で
ひとには歩く自由がある

ひとは歩く
すたすた歩く
ひとは歩く
とぼとぼ歩く
ひとは歩く
のしのし歩く
ひとは歩く
扉をあけて
ひとは歩く
鍵を壊して
ひとは歩く
壁をつきぬけ
ひとは歩く
大地を踏んで
ひとは歩く
国境をこえて
ひとは歩く
人を助けて
ひとには歩く自由がある

生きる

谷川俊太郎

生きているということ
いま生きているということ
それはのどがかわくということ
木漏れ日がまぶしいということ
ふっと或るメロディを思い出すということ
くしゃみをする事
あなたと手をつなぐこと

生きているということ
いま生きているということ
それはミニスカート
それはプラネタリウム
それはヨハン・シュトラウス
それはピカソ
それはアルプス
すべての美しいものに出会うということ
そして
かくされた悪を注意深くこばむこと

生きているということ
いま生きているということ
泣けるということ
笑えるということ
怒れるということ
自由ということ

生きているということ
いま生きているということ
いま遠くで犬が吠えるということ
いま地球が廻っているということ
いまどこかで産声があがるということ
いまどこかで兵士が傷つくということ
いまぶらんこがゆれているということ
いまいまがすぎてゆくこと

生きているということ
いま生きてるということ
鳥ははばたくということ
海はとどろくということ
かたつむりははうということ
人は愛するということ
あなたの手のぬくみ
いのちということ

美しく自分を染めあげて下さい

サトウハチロー

赤ちゃんのときは白
誰でも白
どんな人でも白
からだや心が
そだっていくのといっしょに
その白を
美しく染めていく
染めあげていく

毎朝
目がさめたら
きょうも一日
ウソのない生活を
おくりたいと祈る
夜
眠るときに
ふりかえって
その通りだったらありがとうとつぶやく

ひとにはやさしく
自分にはきびしく
これをつづけると
白はすばらしい色になる
ひとをいたわり
自分をきたえる
これが重なると
輝きのある色になる

なにもかも忘れて
ひとのために働く
汗はキモチよく蒸発し
くたびれも
よろこびとなる
こんな日のひぐれには
母の言葉が耳にすきとおり
父の顔が目の中で
ゴムマリみたいに
はずむ

生まれてきたからには
よき方向へすすめ
からだや心を大きくするには
よき道をえらべ
横道はごめんだ
おことわりだ
いそがずに
ちゃくちゃくと
自分で自分を
美しく
より美しく
染めあげて下さい